

民生経済常任委員会報告書(令和6年11月18日)

委員長	井川 敦雄
副委員長	津川 俊仁
委員	秋山 修
委員	油本 朋也
委員	町田 貴子
委員	前田 栄治
委員	阪本 和俊

民生経済常任委員会の所管事務の調査を実施したので、北栄町会議規則第47条の規定により委員会報告書(中間)を提出します。

記

【調査研究(現況確認)の相手方】

北栄町農業委員会(農政委員)

【期間】

令和6年11月18日(月)

【場所】

北栄町役場 第1委員会室

【テーマ】

北栄町農業委員会(農政委員)と民生経済常任委員会との意見交換会

下記日程により、農業委員の農地パトロールに同行し、町内の農地利用状況を把握して意見交換会に臨むものとする。

令和6年8月19日(月) 江北・国坂(水田) 阪本委員・秋山委員

8月20日(火) 六尾 津川委員・町田委員

8月21日(水) 原 前田委員・油本委員

9月3日(火) 江北(砂丘) 井川委員

【意見交換会の概要】

初めに秋山農政委員会委員長より「北栄町農業施策に関する意見書」について説明された。

農政委員会	民生経済常任委員
	定年帰農について、倉吉市の事例を出していただいているが農業委員会の方から予算を付けるためにどのようなことをされたのか教えていただきたい。

昨年、意見書の提出の時に町長に話をしたが、単独事業でやるのは難しいので、県の事業を上手に活用してやること。また、就農支援のための相談会を開催し、定年就農の方にいろいろな情報提供をしていった。

具体的には、この事業を使ってというよりは、今あるものを上手に案内してあげたらと考えている。それと、以前の就農支援の相談会は県だとか県外で行っているものに参加をしてということだったが、町独自行って地元の方が具体的に相談しやすい環境をつくっていくことで、良かったという意見もあったので、今後も続けていく予定。

定年帰農した時に一番困ったのは機械の導入。就農する場合に機械の投資というのはかなり負担になる。県の補助金は、40 歳未満の人は対象になるが、残念ながら 65 歳以上になると対象外。近代化資金も若い人や認定農業者は利率が下がるのだが、65 歳以上になると下がる。

北栄町としても農業の町とうたう以上は、倉吉市に負けないような補助制度があってもいいのではないかな。

町長が単独では難しいから県の補助金等を使ってやっていくんだと言われたのはいいのだが、議会の方へもそのような話はきていない。今年何か実を結びそうなものはあるのか。

大谷は結構、後継者が次々と帰って来ている状態。所謂、親元就農もあり婿さんを連れて帰って来て独立就農される方もある。今は、1回どこか社会人としてやってみて、それから就農される方が多いよう。卒業式の夢の中に農業をしたいという児童がいないというのは残念だが、農業をする親の姿というものがあり、それが僕には帰ってくるところがある、私には帰ってくる場所があるというような育て方をすると、都会で疲れた時には帰ろうかなという気持ちになるのではないかと考えられる。普段から農業に関する、食農教育であったり、食育というような体験をすることが大切だと考える。	今年の小学校の卒業式の時に児童が大人になったら何になりたいかを壇上で発表したのだが、ほとんどの児童が調理師、パティシエ、美容師などで、農業の町の北栄町でも、農業をしたいという児童が一人もいなかった。やっぱり農業は今の子どもたちにとって魅力がないのかなと思ったが、委員の方はこのことをどう思われるか。
具体例としては緑肥。ネマキング。春にまけば背が高くなって秋に枯れる。盆頃にまけば秋に枯れる。飛砂が一番きついのが3月、4月と9月、10月あたり。春にまけば秋は結構それでカバー出来	飛砂対策について、「防風対策の一つとしてカバープランツを栽培することは有効である」と記載されている。具体的にどのような種をいつ蒔いて、こうすればいいという具体例があって、それは本当に有効なのか伺いたい。

ると考える。問題は春だが、来春はここには何も作らないということであれば、盆明け位にまいておけば枯れ枝があるだけでも飛砂防止には成ると考える。そのため計画的な作付けということも条件となってくるもの。	
昨年よりはやや増えたよう。しかし、令和 2 年の大被害が出たときに比べれば、極端に言うともう無くなったくらい少なくなっている。 秋耕耘、春耕転して寒さにさらす。それから物理的に壊す。浅水管理、それから薬剤散布等でかなり防止できるのは間違いないと思われる。 出ない。補助金が出るのは、水口ネットと薬剤費で 4 分の 1 補助。	今年のジャンボタニシ被害は昨年に比べてどうだったか。 今年被害になった面積が少ない割には、卵は多いようだが、来年は被害が増加するか。 耕運等の活動に補助金が出ないのか。
再生するに当たっても、個人負担では難しいので、国県の事業を使って行わないが、まずは耕作してくれる方があることによってそういう事業を活用し、少しでも作れるところをつくっていくこと	今年、農業委員と一緒に農地調査をさせていただいた。再生できない農地が結構目についたが、逆に再生可能な農地もあるようにも感じた。町内において、再生可能な農地はあると思うが、そういうところに対して、農業委員会としてどのような対策を今後していこうと思っておられるのか。

が大切なと感じている。	
例えば、琴浦から通いで北栄町の畑でブドウを作って収穫し製品にして、北条で出荷する。北栄町の農家が増えるためには、ちゃんと北栄町の畑近くに住宅が確保できること、それと、スーパーが近くにあるということもある。生活をしていこうと思ったら、やはりいろいろなことが絡んでくると考える。農地を活かすためには、それに関連する環境をしっかりと整備していくことが必要なのだと思う。私も就農した当時は倉吉から通いでやっていたが、やっぱりそれは大変だし、子どもの学校のこともあり、北栄町に移住を決断した。しかし、住宅を探すのが大変だった。そういうことを総合的に考えていただくのも北栄町の役目ではないかと考える。	合併時に当時の農業委員会の会長にまちづくりのためには、農地を止めてでも商業地とか宅地を作って人口を増やしていかないとだめじゃないですかと尋ねたら、北栄町内で農作物を作っている農地は一切潰さないと言われた。やはり、人口が増えていかないと町は衰退してしまうと考える。そこで、農業委員として、やっぱりまちづくりという観点で、ある程度農地を埋めたりして商業地にしても良いと思っておられるのか、それとも農地は作っていないと駄目という思いを持っておられるのかその辺をお聞きしたい。
(措置) 「北栄町農業施策に関する意見書」に基づき、議会として取り組めることを検討する。	

【まとめ】

農業委員会から出される「北栄町農業施策に関する意見書」について、今後参考にし、議会として取り組めることについて検討したい。